

新明解説

CHO (最高『幸福』責任者) の役割と実務

持続可能な経営は「あり方」重視の「幸福」軸で進めよう

株式会社シェアードバリュー・コーポレーション 代表取締役 小林 秀司

■『六方よし』の推進役として

CHO (チーフ・ハピネス・オフィサー) とは、幸福をマネジメントする専門の役職です。Googleなどの先進企業がCHOを導入したことから、近年、新しい組織マネジメントのあり方として注目を集めています。

令和の時代となり、未曾有の労働力激減という昭和と真逆の環境下で、企業の経営課題は、いかに「持続可能性」を高めていくかになりました。持続可能性は、ステークホルダーとの関係の質をバランスよくしていくことで高まります。かつて近江商人が大切にしていた「売り手よし、買い手よし、世間よし」に加えて、これからは「作り手よし、地球よし、未来よし」の『六方よし』を実現する幸福度の高い組織が、社会からなくてはならない存在として受け入れられ、永続の道を進んでいくことになるでしょう。

それを実現していくことを使命として、期待されている専門家がCHOなのです。

目次

1. 「やり方」よりも「あり方」が問われる時代

- 急成長から安定成長へ
- 満足から幸福へ

2. 幸福な職場の「あり方」をつくるCHO

- CHOの定義
- 幸せ基準とは
- CHOの役割
- CHOに求められる知識・能力・スキル
- GoogleのCHOが重視していること
- CHOの重要な使命
- はっきりNOを言うこともCHOの務め

3. CHO事例研究

- カイザーキッチン株式会社の取り組み

4. 幸せ軸への変革を阻むもの

- 昭和トップとCHO
- 昭和の常識では確実に手遅れになる

5. 「いい会社」はリーダーの気づきから

- CHOの担い手
- CHO適任者の選択が極めて重要

<巻末資料 社員意識調査票サンプル>



小林 秀司 (こばやし ひでし) 社会保険労務士 内閣府選定地域活性化伝導師

1960年生まれ。教育出版会社、株式会社日本マンパワーを経て、1997年に独立し、株式会社シェアードバリュー・コーポレーション (SVC) を設立、代表取締役。2009年より法政大学大学院の坂本光司教授に師事し、2011年3月、法政大学大学院政策創造研究科を修了 (政策学修士)。経済産業大臣賞・中小企業庁長官賞「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」創設にも深く関わった。人を大切にする会社づくりのトータルプロフェッショナルとして、自治体や経営団体、企業等での講演や研修、コンサルティング実績多数。著書に『元気な社員がいる会社のつくり方』(アチーブメント出版)、『人本経営』(ウイズワークス) ほか多数。

<https://www.keieijinji.com/>